2017年3月
(March)
第27号

フレンドシップス

FRIENDSHIPS

奈良市の姉妹都市ベルサイユ市　市庁舎

奈良市国際交流協会

ご挨拶

奈良市国際交流協会名誉会長

奈良市長　仲川 げん

春暖の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、奈良市政ならびに国際交流事業に多大なるご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は昭和61年にベルサイユ市との間で交わされた姉妹都市提携の30周年を記念して、ベルサイユ市長一行が奈良市を訪れました。一行は三日間の滞在の中で奈良市の豊かな自然や歴史、文化に触れ、当協会ベルサイユ部会主催の歓迎夕食会では部会員の方々とも交流をされました。今回の交流で、両市ともに姉妹都市への一層の理解と愛着を深めていただけたものと存じます。この30周年を両市交流の大きな節目として、これまで培ってきたベルサイユ市との絆をこれからも大切に育んでまいりたいと存じます。

また、昨年は奈良市が「東アジア文化都市2016」の開催都市に選ばれ、「古都奈良から多様性のアジアへ」をテーマに、舞台芸術・美術・食を切り口に様々な文化プログラムを市内で展開いたしました。9月から10月にかけてのコア期間中、奈良市内の社寺やならまち界隈で、アジアを代表する芸術家たちによるアート作品をお目にされた方も多いのではないでしょうか。この事業を通じ、同じく開催都市である中国の寧波市・韓国の済州特別自治道をはじめとするアジア各都市と文化の力で絆を深めるとともに、奈良市が国際的な文化都市として新たな魅力を世界にアピールする良い機会に恵まれたと考えております。

わが国の年間訪日外客数は昨年初めて2,000万人を突破し、過去最高を更新しました。今後もこの勢いを持続すべく国を挙げてインバウンド誘致に取り組んでおります。このような時勢の中で、奈良市も今一度外国人の受け入れ環境のあり方が問われていると感じております。古来よりシルクロードの東の終着点として多様な文化を受容してきた古都奈良の開かれた精神性を礎に、「世界から尊敬される国際観光経済都市NARA」として今後も幅広い言語・文化圏の方々との交流を図り、市内の受け入れ体制を強化していく所存です。

最後になりましたが、会員の皆様におかれましては、日々ご協力を賜っておりますことに改めて感謝申し上げますとともに、奈良市国際交流協会と奈良市のさらなる発展のため、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、今後ますますのご健勝とご多幸を祈念して挨拶といたします。

奈良市国際交流協会会員の皆様へ

奈良市国際交流協会
会長　辻井 昭雄

奈良市を代表する社寺の一つである、春日大社では、二十年に一度の式年造替の集大成として昨年11月に正遷宮が執り行われ、神々が美しく生まれ変わった御本殿へとお住まいを改められました。春日の神様も新たな気持ちで迎えるこの春、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、昨年5月には、三重県志摩市において、伊勢志摩サミット（主要7ヶ国首脳会議）が開催されました。開催地である日本が議長国として、国際社会が直面する課題について各国首脳が意見交換を行いました。2日目には当時アメリカ大統領であったバラク・オバマ氏が広島を訪問され、被爆者の方々と対面を果たされたというニュースは、核廃絶と世界平和に向けた確かな一歩として、私たちの心に強く焼き付いております。

また、昨年8月、ブラジルのリオデジャネイロで開催されたオリンピック競技大会では、日本選手の目覚ましい活躍や世界が圧倒されるハイレベルな戦いの数々に日本中が湧き立ちました。次の夏季オリンピックが開催される2020年、日本は一参加国としてではなく開催国の立場で迎えることとなります。世界各国から訪れる人々を受け入れるために、日本がどのような取り組みを行うのか、その動向を世界中から注目される4年間となることでしょう。

政治・スポーツに限らず幅広い国際舞台において、日本が果たす役割は年々大きくなっておりますが、国レベルで次々と推し進める国際化の流れに、市民一人ひとりの意識が未だ追いついていない部分もあると感じることがあります。そうした中、当協会に出来ることは、市民を主体とする地域レベルでの取り組みによって国際交流をより身近なものとし、世界各国・各都市の理解を深めることで、地域と世界との距離を縮めてもらうことであると改めて認識いたしております。

平成28年度の協会事業では、姉妹都市提携30周年を記念して来寧されたベルサイユ市長一行をお迎えし、互いの市への理解と愛着を深める良い機会となりました。また慶州部会で新たに行ったキムチの漬け方講習は、市民の方々より多くのご好評を頂きました。皆様がこれまで紡がれてきた国際交流の絆を大切に継続し、新たな交流の輪を広げていくことで、地域社会の国際理解は着実に進展していくものと確信しております。今後とも知識や経験が豊富な皆様にお力添えいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、当協会の活動が世界各国の都市との友好交流の一助となり、世界的な友好の輪が広がっていくことを心から念願いたしますとともに、会員の皆様のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、挨拶といたします。

第17回　日中友好・日本語スピーチコンテスト

（2016年7月10日）

日中友好･日本語スピーチコンテストは、当会が発足とともにはじめられたもので、今年（平成28年、2016年）は第17回を数えました。発表者は限定しているわけではありませんが、奈良の大学に留学されている中国の方が中心となっております。

それにつけても、皆さんの真剣さには頭がさがります。スピーチはひとり十分余りですが、あらかじめまとめた原稿を読み上げるのではなく、それらを見ずに頭に入れて、自らの言葉で語るのですから、大変な努力が必要です。来日後、間がなく日本語の学習がまだたどたどしい人もいれば、二年三年を経て流暢に日本語をあやつる人もいて様々ですが、いずれも真剣に取り組んでいる姿はまぶしくさえ見えます。

スピーチの内容も、母国中国のふるさとの風景や、自らの生い立ちや風習を紹介してくださる方。あるいは日本での大学生活で困ったこと、異なる習慣にとまどったこと、また、あこがれの奈良のすばらしさ等々、内容は思い思いですが感じるところを率直に語ってくれます。また時には予期しないことがらで、鋭い日本批判も飛び出しますが、自らの実感にもとづくものですから、なるほどと感心させられるところが多いです。

十七年間の発表者の数は優に百人は超えるでしょう。時折それを振り返って五年前、十年前の彼ら彼女らは、今どうされているかなどと、思いを馳せてもみるのです。

母国に帰って活動されている方、広く海外に羽ばたかれている方等々、進路はいろいろでしょうが、かつて、奈良での留学で培われた日本語力にさらに磨きがかかり、その心底には日本への友愛の情が深く刻まれているものと確信します。

「寄稿者：奈良市日本中国友好協会」

緊張します

遠藤会長より「おめでとうございます」

アトラクション「朱雀門前の太極拳の皆様」
童謡を心こめて･･･

領事、審査員、スタッフと発表者の記念写真　ハイ、チーズ

東大寺　大仏造顕発願　慶讃音楽奉納　ルシャナ大仏発願讃歌
日伊国交150年記念に世界の安寧を平和を祈り奉る（2016年10月13日）

NPO法人奈良芸能文化協会は、音楽を通してシルクロードの西の国イタリアを中心に国際文化交流に取り組んでいます。

日伊国交樹立150年の年に、日伊文化交流の証の一つとして、狭川普文東大寺別當監修のもと、慶讃行事の一環として、世の中の安寧と世界平和を祈念した世界遺産の東大寺大仏殿内で、奉納演奏<東大寺　大仏造顕発願　慶讃音楽奉納「ルシャナ大仏発願讃歌」>を東大寺様の特別のおはからいにより開催することができました。マルコ・ロンバルディ在大阪イタリア総領事に、ご臨席賜りました。

「ルシャナ大仏発願讃歌の歌合わせ」

奉納演奏が始まるに際して、狭川普文猊下より、「音楽は国を越えて通じ合う交流そのものです。本日の演奏により、大仏様に喜んでいただけるのではと、楽しみにしています。」と、ご挨拶を頂きました。

読経が厳かに響きわたり殿内は静寂につつまれました。

≪「ルシャナ大仏発願讃歌」の歌合せ≫が、ソプラノ歌手の山口佳恵子氏、トスティ歌曲コンクール上位入賞者達の歌声と、ヴァイオリン、チェロ、パーカッションとの共演による演奏で幕が開きました。「大仏開眼会に作れる御歌と元興寺献歌二首」、「藤原宮子中宮の献歌せられた御歌」、トスティ歌曲、日本歌曲などの演奏で、イタリアと奈良を結んだシルクロード、仏法が結ぶ悠久の妙なる調べを讃えて歌い上げました。

マルコ・ロンバルディ在大阪イタリア総領事

結≪「ルシャナ大仏発願讃歌」の歌合せ≫の奉納演奏は、演奏者と殿内の人々の心が結ばれ一つとなり、時空を越えて、天上高く響きわたりました。殿内は拍手喝采!

大仏様は、静かに微笑んで私達を見ておられました。

末永く日本とイタリア、奈良とイタリアの文化交流が続くことを願います。

最後になりましたが、開催にあたり、ご尽力、ご協力を頂いた皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

「寄稿者：特定非営利活動法人奈良芸能文化協会」

「ルシャナ大仏発願讃歌の歌合わせ 山口佳恵子（ソプラノ）」

「ルシャナ大仏発願讃歌」の歌合せ　出演者

監修：狭川普文東大寺別當　作曲：河合摂子
ソプラノ：山口佳恵子　ピアノ：山田剛史
テノール：古橋郷平、又吉秀樹、紀野洋孝、黄木透
バリトン：ヴィタリ・ユシュマノフ
ヴァイオリン：江口純子　チェロ：中嶋寄惠
パーカッション：西川夏代

「ルシャナ大仏発願讃歌の歌合わせ」

NaFu!創立15周年記念事業<文化・芸術・交流の都>NARA国際フェスティバル
～佐々木 忠　在独50周年記念コンサート in 奈良～（2016年10月30日）

この度、NPO法人（NaFu!）国際交流ならふれあいの会「NaFu!創立15周年記念」に際し、今年でドイツ在住50年を迎え、ヨーロッパを始め世界で活躍されている日本を代表するクラシックギタリスト佐々木忠（ささきただし）氏を奈良にお招きし、多くの音楽ファンや市民の皆様が一堂に集い、和やかなコンサートを開催致しました。

佐々木忠先生は、ヨーロッパでも名高いケルン音楽大学で40年にわたり、日本人として唯一の教授として数多くの国際的な演奏家を指導、輩出され、現在でも様々な地域で国際コンクールの審査員長を務められ、クラシックから日本の民謡、歌曲まで編曲され、数多くの出版もされています。

日独青少年の友好をつなぐ趣旨として、フルーティスト野原剛（のはらごお）氏（奈良県立高円高校音楽科・大音卒）、奈良県立奈良高校ギターマンドリンクラブ17名による歓迎演奏、加えて油彩画家、原田正有（はらだまさとも）氏（在独歴23年）による「奈良の風景画」を会場ロビー特別展とし、音楽と絵画の融合した空間を企画しました。

国際文化に触れる機会、巨匠の音楽を一堂で体験するという貴重な機会に、会場は感動の渦に溢れました。

佐々木忠（クラシックギター）と野原剛（フルート）の共演

奈良高校ギターマンドリンクラブの歓迎演奏

1. ホームステイの受入事業
2. 国際理解・協力事業
3. 青少年の夢支援事業

以上活動の3本の柱を中心に、今後も多くの方々と国際意識を高め分かち合う国際交流の場、青少年の未来を拓く活動へと成長できますよう市民レベルの協働を目指します。

沢山のご声援とご協力参加を賜わり、心から御礼申し上げます。

「寄稿者：NPO法人　国際交流ならふれあいの会」

原田正有「奈良の風景」の油彩画展示（秋篠音楽堂ロビー）

クラシックギターの巨匠　佐々木忠

キムチ作り教室

（2016年12月11日）

奈良市生涯学習センタークッキングルームにて韓国民団奈良県地方本部から講師をお招きして、『キムチ作り教室』を開催しました。奈良市国際交流協会慶州部会としては、久しぶりの開催であり、また、最近このような行事の開催がないためか、「しみんだより」にて募集しましたところ、約150名の申し込みをいただきました。急きょ参加人数を増やし、約30名に参加案内を送り、最終24名の参加をいただきました。

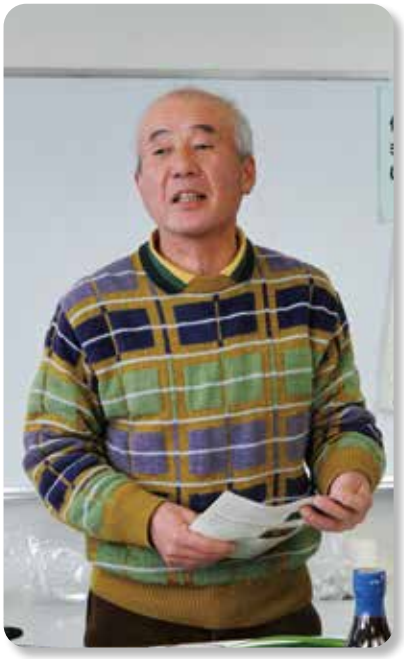
韓国の伝統的文化・食品であるキムチは、食品としてすでに日本に定着しております。講師よりその由来や食品としての栄養・味などの説明とともに、調理方法（漬け方）や、白菜はもちろん、材料としていろんなもの（例をあげればりんご）が含まれているとの説明に、驚きの声があがりました。

今回は、久しぶりの開催であり、キムチ作りにおける最後の漬ける部分を教室で実施しました。事前にスタッフにて塩漬け作業を行い（教室ではその作業を説明し、漬けた白菜をお見せしました。）、参加者みずから手作りのキムチを作っていただきました。みずから作ったせいか、キムチの出来栄えについては、大変好評を得ました。

参加者の声を聞きますと、2日にわたってもいいからキムチ作りの塩漬けの段階から習いたい、という希望がたくさんありました。2017年度については、本年度の参加希望者数、また教室での実施希望内容をふまえ、開催回数、および方法について検討し、より楽しく充実した『キムチ作り教室』を開催する予定です。興味・関心のある方は、ぜひともご参加ください。

「寄稿者：奈良市国際交流協会慶州部会」

グループにわかれてキムチ作り



荒木慶州部会副部会長による開会挨拶

講師のみなさん

作業中の一場面

フレンドシップス 第27号 二〇一七年三月三一日発行 奈良市国際交流協会事務局
〒六三〇―八五八〇 奈良市二条大路南一丁目一番一号 奈良市役所 観光戦略課内
TEL/FAX 0742-34-1965 E-mail:kankousenryaku@city.nara.lg.jp

奈良市・ベルサイユ市　姉妹都市提携30周年記念（2016年10月14日～19日）

奈良市とベルサイユ市は、1986年11月14日に姉妹都市提携をしました。

今年は提携30年を記念して、ベルサイユ市長フランソワ・ド・マジエール氏一行が10月14日から19日にかけて来寧されました。初日には奈良市長を表敬訪問され、今後の交流について、特に観光や経済、学生交流の分野で推進していきたいと述べられました。また、16日にはベルサイユ部会が主催した歓迎夕食会にお越しいただき、市長自ら、ベルサイユの写真を見ながら町の様子を説明してくださるなど、部会員の方々との交流を深められました。その他、期間中には、東大寺や春日大社など市内の世界遺産を観覧され、お茶席や茶摘みなど、日本の文化を体験されました。東アジア文化都市プログラムを視察された際には、平城宮跡での演劇“アマハラ”に感激され、奈良町にぎわいの家では、紙ずもうに挑戦されました。

ベルサイユ市とは、距離は遠くはなれていますが、ともに歴史的遺産を持つ都市として、遺産の保存と文化の継承を共通の目標とし、今後も交流を続けていきます。

飛火野での鹿寄せ

奈良町にぎわいの家にて

歓迎夕食会の様子

古都奈良から多様性のアジアへ「東アジア文化都市2016奈良市」が閉幕

「東アジア文化都市2016奈良市」が12月26日に開催されたクロージングをもって閉幕しました。「古都奈良から多様性のアジアへ」をテーマとし、「古都祝奈良（ことほぐなら）―時空を超えたアートの祭典」と題したコア期間（9月3日～10月23日）を中心に、平城宮跡での野外演劇や市内八社寺・ならまちでのアート作品の制作・展示、食のイベントなど、さまざまな文化プログラムを通して、奈良の持つ“場の力”を国内外に発信しました。

また、日中韓の共通文化である漢字を用いた「書」の作品の共同制作や、写真撮影を通して、3か国の学生が交流を深めました。他にも1年を通して寧波市・済州特別自治道での奈良の伝統工芸の制作実演や芸能の披露など、奈良の文化を海外に発信しました。

奈良市では、この事業で培った文化プログラムのノウハウやネットワークを最大限活用し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、国際文化観光都市・奈良としての基盤をより強固にしていきます。

東アジア文化都市とは…

毎年、日本・中国・韓国の3か国で文化による発展をめざす都市を各国1都市選定し、それぞれの都市が1年を通じて行うさまざまな文化プログラム等により交流を深める国家プロジェクト。2016年は日本・奈良市、中国・寧波市、韓国・済州特別自治道が開催都市に選定された。2017年の開催都市は日本・京都市、中国・長沙市、韓国・大邱広域市。

東大寺“船をつくる”プロジェクト

日中韓の大学生による書の交流

「古都祝奈良」開会式

クロージング フィナーレ